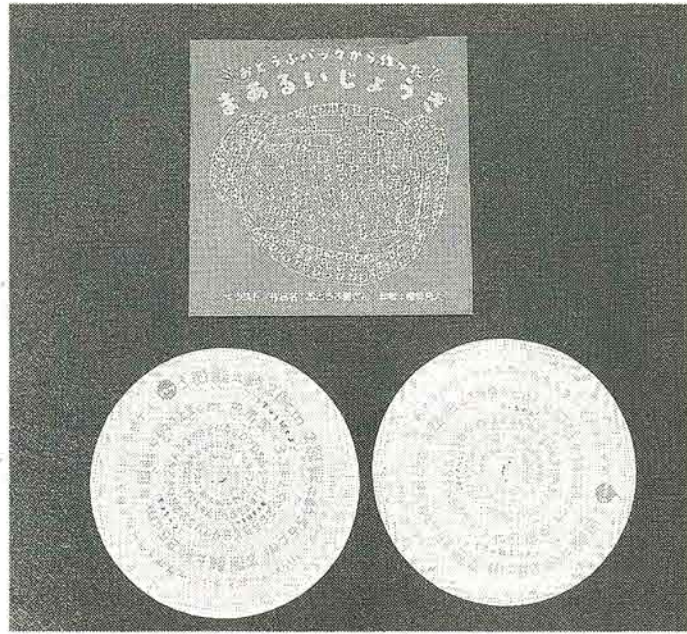


豆腐容器のアップサイクル開始

おとうふ工房いしかわ



開発した丸い定規と封筒

大豆加工品の製造販売を手掛ける、おとうふ工房いしかわ(本社高浜市豊田町1の204)の21、石川伸社長、電話0566・54・0330)は、廃棄素材に新たな価値をつけて再生する「アップサイクル製品」として、豆腐容器を活用した

丸い定規を開発した。定規を入れる封筒のデザインは、安城特別支援学校の生徒が担当した。高浜市と同校に寄贈し、環境と福祉を掛け合わせた「環福連携」の教育に活用してもらう。

(刈谷・山田悠)

円形定規製作、近隣の学校へ寄贈

同社は環境配慮の取り組みを入れている。2023年から豆腐容器を順次、プラスチックの使用量を減らした仕様に変更。また、「くるりんバック事業」の名称で、廃棄される豆腐容器を一般家庭や学校から回収し、アップサイクル製品にする企画をスタートさせた。

今回は工場で廃棄される容器でアップサイクル製品を試作。東海地方の製造業の協力を得て、丸い定規を完成させた。封筒のデザインは安城特別支援学校高等部2年の橋崎充人氏のイラストを採用。封入作業は地元の高浜市立高浜安立へ委託した。

製品名は「まあるい定規」。一般的な定規は長方形だが、あえて丸くした。みんなが力を合わせると、価値のないと思っていたものが宝物に変わる、などの思いを込めた。

高浜市内の小学生と安城特別支援学校の生徒に配布する予定で、21日に高浜市役所で寄贈式を開催した。



高浜市役所で開かれた寄贈式(左から石川社長、安城特別支援学校の橋崎氏、吉岡市長)

高浜市の吉岡初浩市長や安城特別支援学校の橋崎氏らが出席した。

おとうふ工房いしかわの石川社長は「豆腐をつくる過程でさまざまな廃棄物が発生する。それ

を一つずつなくす活動を行っている。なかでもお豆腐のバックは、長年の課題だった。今回の製品を小学校の授業で使うことで、豆腐バックがリサイクルされる仕組みを知ってもらいたい」と話している。

今後、小売事業者などの協力を得ながら、使用済み容器の回収体制を整備し、循環型社会の実現に貢献する方針。今年の夏休みには本社で開催するSDGs(持続可能な開発目標)をテーマにしたお豆腐教室での利用も予定している。

三河・静岡

三河支社

岡崎市明大寺町寺東5-3
鈴熊ビル
TEL0564(52)2260
FAX0564(54)2336

刈谷支局

刈谷市相生町2-11
佐藤会計ビル
TEL、FAX兼用
0566(21)6106

三遠支局

豊橋市松葉町2の45
柴田ビル3階
TEL0532(54)2668
FAX0532(35)7100